

交換留学帰国報告書

記入月日: 令和元年 12 月 24 日

氏 名: 坂井 穂花

留学時所属&学年: 国際地域学部 2 年

留学先大学	マカオ大学
留学先地域	マカオ
留学期間	1 年
留学開始一終了日	2018 年 12 月 31 日 - 2019 年 12 月 18 日

報告書上での氏名公開について (どちらかに○をつけてください。)

帰国報告書 : 公開を 希望します ・ 希望しません

月例報告書 : 公開を 希望します ・ 希望しません

【留学前: 留学に至った経緯や留学準備について】

1. 交換留学を希望した動機について教えてください。

元から留学する前提で大学に入学しており、数ある留学の形(私費留学、語学留学、UMAP 協定など)の中で交換留学は自分の大学の授業料を払い、単位が交換できて、4 年で卒業できるという点が自分に合っていると思いました。そして、交換留学を通して海外生活をして、今まで自分の知らなかったことを目を見て、自分の世界観を広げたいと思っていたからです。

2. 留学準備を始めた時期はいつ頃ですか。何から準備を始めたかについても教えてください。

2 年の 9 月後半にマカオ大学留学が学内で仮決定したので、10 月後半までにノミネーションに必要な CV を作成し、英文成績証明書などとともに提出しました。それから、ノミネーションを受け入れてもらうと、オンライン入学申請をしました。このオンライン申請時に、受けたい授業を選択できますが、留学生ということでかなり限定されて、取りたい授業があまりなかったので、現地で担当の方に直接交渉したこともありました。他にも、破傷風の予防接種、健康診断が必須でした。留学先大学から入学許可書が届いてから航空券を取らなければいけなかったのですが、あまりにも届くのが遅かったので、11 月の初めに急ぎで航空券を取りました。海外保険の申請や海外でキャッシングカードとしてもクレジットカードとしても使うことのできるキャッシュパスポートの申請もしました。VISA については現地に行ってから取ればよかったので、何も準備はしませんでした。そして、出発が第 4 クォーターの途中だったので、10 月に授業が始まる時期に福井大学の先生方に事情を説明して単位を取得できるように出席できない分の授業の埋め合わせとして特別課題を出してもらいました。ほぼすべての授業から課題が出さ

れたので渡航までに終わらせることができず、結局現地まで持って行って終わらせました。

3. 留学先を決めた経緯について教えてください。また、派遣先の大学や現地情報についてどのように情報収集を行いましたか。

留学自体をする意志は強く持っていましたが、留学資格を獲得したときは、行先は特に決めていなかったのですが、募集期間に配られる提携校リストを見て自分の点数、その大学の得意分野と自分の興味のある分野、経済的余裕を考慮して決めました。マカオはアジアに位置しており、ヨーロッパでの留学と比べると生活費などの経済的な面では少し余裕があると感じ、さらにマカオはカジノが栄えている地域なのでビジネスの勉強に適している、ポルトガル植民地時代の文化と中国文化の融合もみられる魅力的なところだと感じて、福井大学での授業を中断していく形となりましたが、決断に至りました。情報収集においては一つ上の先輩が先に留学していたので、留学が決まる前から、事細かに現地での生活、授業のとり方、マカオの雰囲気などについて連絡を取って聞いていました。ほかには、自分で旅行ガイドブックを購入して調べたり、インターネットで調べたりもしました。

4. 留学に向けての語学試験対策、各種語学能力試験などの受験回数について教えてください。

TOEFL ITP 自体は2年の8月までに6回受験しました。TOEFL 対策には、1年前期のTOEFL 対策講座をもとに過去問で傾向をつかみ、とにかく文法問題を解いて復習を繰り返す、文法を自分の強み・得点源にしました。1年後期には逸見先生の臨時 TOEFL 講座に欠かさず参加し、日ごろの授業の予習復習と並行して何とか勉強を続けていくことができました。2年次には授業の課題として出されるリーディングをしっかりとやりこむことで TOEFL の点数に結果が出たと思います。

5. 留学準備を進める際に役に立ったことについて教えてください。

(例: 助言教員、国際課、留学経験者からのアドバイス、大学情報ウェブ、留学オアシスなど)

国際課の担当の方や同じくマカオ大学に留学していた先輩からの実際の印象や授業についてのアドバイスが参考になりました。

6. 渡航前の履修登録や単位認定に関して、苦労したことやアドバイスはありますか。

渡航前にオンライン入学申請をする際に授業をプレ登録できたのですが、留学生だという理由で選択できる科目が非常に少なく、実際に行ってから担当の方のもとへ行って交渉しないと好きな授業が登録できないことがあり、少し不自由でした。単位認定に関しては、マカオ大学の専門性の高い授業と単位交換する、福井大学の授業がなくて単位交換を断念することもありました。しかし、単位交換ができそうな授業ばかりを取るよりも、自分が本当に興味が湧いた授業を積極的にとる方がよいと思ったので、単位交換にあまり執着はしないようにしました。

【留学中:大学生活や日常生活について】

A. 大学生活

1. 大学の校風や雰囲気はどうでしたか。

キャンパスは割と新しく、職員寮、学生寮、ちょっとしたモールなども含まれていることから、福井大学の3倍以上はあり、マカオの本島2島とは離れた、中国の土地の一角にあるので静かな雰囲気に包まれています。

2. 大学構内の設備(ネット環境、学習支援、スポーツ施設等)について教えてください。

ネット環境については、主要建物内に居れば安定してWi-Fiに接続することができましたが、キャンパス内に居ても、建物の外にいると接続が弱くなる時がありました。

学習支援について、日本同様、受講している授業の先生のオフィスアワーに合わせて事前予約を取って質問へ行ったり、メールでわからないことを質問できます。学内の図書館はとても広く、7時から24時まで空いています。さらに、各授業棟のGフロア(1階)には勉強に限らず、ご飯を食べたり、友達と話したり、自由に使用できるスペースがあります。

そして、キャンパス内には大きなジムがあり、好きな時間帯に使うことができます。

3. 参加していたサークルや部活はありますか。部員の数や活動内容、イベントなどについて詳しく教えてください。

吹奏楽部(Symphonic Band)に所属していました。部員は40人ほどでしたが、イベントに出るのは30人ほどでした。マカオ全体の吹奏楽自体がそれほど盛んではないので、イベントは少なく、学部生の入学式・卒業式、院生の入学式・卒業式、年に2回の小さめの学内コンサートがあります。年に二回香港の大学と合同コンサートをしていたようですが、香港での暴動のため、2019年は中止になりました。イベントの少なさがゆえに、練習日も少なく、テスト期間、夏休み・冬休み以外の毎週火曜日19時半から21時半まででした。

B. 授業や勉強

1. 留学先で履修した科目

1	<ul style="list-style-type: none">●科目名(担当教員名):Chinese for Non-Native Speakers1 (Wang Shan)●時間数/週(単位数):75分×2回(3単位)●クラスの学生数:約15名●授業内容・課題(予習・復習の方法等):留学生向けの初級中国語の授業で、発音などを一から始める、欧州からの留学生に優しい授業でした。漢字はあまり使わず、ピンインで会話練習、発音練習などのスピーキング中心の授業でした。5回ほどオンラインでの単語クイズがありました。留学前に履修していた内容とほぼ同じで、授業自体を復習感覚でとらえていたので、特に力を入れて予習復習はしませんでした。中間テスト、期末テストともにスピーキングと、ほとんどが選択問題のライティングの2つを含んだテスト形式でした。
2	<ul style="list-style-type: none">●科目名(担当教員名):Business Communication (Yuko Matsumoto)●時間数/週(単位数):75分×2回(3単位)●クラスの学生数:約40名●授業内容・課題(予習・復習の方法等):ビジネスの場面でのメールの書き方、英語のワードチョイス、プレゼンなどを学んで2回ほどそれぞれ異なる場面でのメールを書く課題と、文章書き換えがメイン内容の中間テスト、期末にはグループワークとしてプレゼンテーションをしました。予習としては事前に配布されているレジュメを読んで教科書を確認する程度、復習は自分でその範囲のルールを使って文章を書き換えると身につくと思いました。
3	<ul style="list-style-type: none">●科目名(担当教員名):Principles of Marketing (Chanthika Pornpitakpan)●時間数/週(単位数):75分×2回(3単位)●クラスの学生数:約35名●授業内容・課題(予習・復習の方法等):ビジネスを興す、起業するにあたっての市場における基本事項を学びました。広告作りに意識されていることや商品のブランディング戦略についても学び、先生がスライドに沿って講義するスタイルの授業で、日本の授業と形式が似ていました。たまに最終プレゼンのグループでディスカッションをして軽く発表して意見交換をすることもありました。予習には、オンラインで事前に配られているスライドを事前に自分で準備して見直し、復習には授業で習ったところを教科書で読み直して頭に入れるといいと思いました。授業で参照されている動画なども注意した方がいいと思います。中間テスト・期末テストともに教科書5割、スライド5割の範囲で出題されました。教科書を読みこめば十分にカバーできると思いますが、担当の先生によって授業の内容からテストの範囲・出題方法まで大きく異なるので参考程度です。

4	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Human Resources Planning and Staffing (Raymond Loy) ●時間数/週(単位数): 75分×2回(3単位) ●クラスの学生数: 約 35名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 会社・企業内・街からの人材採用、育成についての授業で、最終プレゼンではグループごとに一つ新しく起業する会社の種類を決め、従業員の採用方法・採用条件について尚を授業で学んだことをもとに発表しました。中間・期末テストはやや難しく、授業自体の難易度が高いため、もともと専門外の私からすればやや難しく感じました。予習復習はオンラインで配布されるスライドをもとに行い、授業中にメモを取るなどすると復習にすごく役立ちます。
5	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Organizational Behavior (Yuko Matsumoto) ●時間数/週(単位数): 75分×2回(3単位) ●クラスの学生数: 約 35名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 会社でマネジメントをする立場(リーダーなど)においていかに従業員を動機づけて行動に移せるか、その効率的な方法について学びました。この授業についても予習復習はオンライン配布されるスライドをもとに行いました。しかし、専門的な内容なので、福大の授業には単位交換できるものはありませんでした。
6	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Gender and Society (Melody Chia-Wen Lu) ●時間数/週(単位数): 75分×2回(3単位) ●クラスの学生数: 約 70名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 世界(アジア中心)に見たジェンダー問題を様々な角度から見つめなおす内容になっており、福大のジェンダーの授業では学べなかった、広い視点でジェンダー問題について考えることができます。3回に一回のペースでオンライン授業があり、先生の説明する動画で授業を受けます。ブレンディングメソッドというやり方で、オンライン授業→講義→ディスカッションの流れで一つのテーマが終わります。予習はオンライン授業の流れに沿ってリーディングを読み、講義に備える形で、そのオンライン授業の次の講義が始まるまでにオンラインクイズを受けておくのが一連の流れです。復習には、オンライン配布されるスライドを見直すのが効率的だと思います。テストは中間のみで、難易度高め、期末にはグループワークでレポートを作成して提出という形でした。
7	<ul style="list-style-type: none"> ●科目名(担当教員名): Introduction to Film (Tan See Kam) ●時間数/週(単位数): 75分×2回(3単位) ●クラスの学生数: 約 40名 ●授業内容・課題(予習・復習の方法等): 映画の誕生・成り立ちから現代における映画の進化などを主に機械などの物理的要素から学びました。予習は特に必要なく、授業で映画を見て歴史的要素を分析、進化を観察したり、講義の場合もありました。中間の時期にはグループプレゼンがあり、期末にはテストがありました。一度だけ課題を出す時があ

り、映画を見て登場人物、ストーリーについて設問に沿って作成していきました。復習には授業で配布されるスライドが効果的でしたが、スライドにないことも大事なので授業でメモを取るのが大事だと思います。

2. 授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫をしたことはありますか。

常に授業前にはポータルを確認して授業の準備漏れがないかを見て、スライドなどで復習をしたり、必ずリーディングを読んでから授業に出るようにしていました。授業準備や授業内容について疑問があるときは先生にメールで質問をしていました。

3. 学習面で困ったことや、その解決方法について教えてください。

わからないことは授業が同じの友達やグループメイトに質問していました。

4. 授業スタイルはどのようなものでしたか(講義聴講、ディスカッション等)。また、それに対してどのような印象を持ちましたか。

授業によってさまざまで、上記の履修した科目の説明のとおりです。

5. お薦めの教員や授業などがあれば教えてください。

特にありません。

C. 居住環境や日常生活

1. 居住場所について教えてください。

形態	<input checked="" type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他()
部屋人数	(2)人部屋 トイレ、シャワールーム、洗面所は4人で共有
寮・アパート名	Choi Kai Yau College (W12)
家賃に含まれた費用	<input type="checkbox"/> 光熱費 <input type="checkbox"/> 水道代 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット代 <input checked="" type="checkbox"/> 食費 <input type="checkbox"/> その他()
ネット環境	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
室内設備	<input checked="" type="checkbox"/> ベッド <input checked="" type="checkbox"/> 机 <input checked="" type="checkbox"/> 椅子 <input checked="" type="checkbox"/> クローゼット <input type="checkbox"/> 電話 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> シャワー・浴室 <input type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房機器 <input type="checkbox"/> その他 ()
共用設備	(洗濯室、コンビニなど自由に記入してください。) 洗濯室、キッチン

2. 大学、住居周辺の施設について教えてください。

(銀行、現地のスーパー、日本食レストランやスーパーの有無など)

大学のキャンパス内に寮、授業施設などすべてがあり、大学内のモール(S8)にはスーパー、レストラン、テイクアウト専門店、ドリンク店、フードコートが備わっていました。また、銀行、郵便局も設備されていました。

3. 現地銀行開設の有無や、現金入手方法、クレジットカードの利用頻度などについて教えてください。また、留学費用や現地での支出の管理はどのようにしていましたか。

現地銀行の口座は開設せず、渡航前にキャッシュパスポートという会社の、キャッシング可能なプリペイドカードを利用していました。毎月定額をキャッシュパスポートで引き出し、大きな買い物をする際にはクレジットカードを利用していました。また、大変だったのは、半年の留学終了間近に、来学期の良否を収めなければならない、その支払いの際には中国銀行で現金支払いが一番楽な方法だったので、毎日キャッシュパスポートの上限を引き出して支払いました。正直、現地での良否等の支払いの際には日本からの送金も可能ですが、日本円からマカオパタカに直接移動されず、銀行を何度も移動して支払われるので、手数料がかさみ手間がかかるのでお勧めしません。渡航前に収める寮費も現地についてから支払いました。

4. 渡航直後に必要だったものや、あって便利だったものを教えてください。また留学期間を通して、日本から持参すべきだったもの、持参しなくてもよかったと思うものはありますか。

渡航直後は大晦日で、とても寒い時期だった(マカオの寒い時期はその年によります)ので、マフラーをもってこればよかったと思いました。海外対応のヘアアイロン・ドライヤーを持って行ってよかったと思います。金銭面に関して、プリペイドカードには日本から入金して使えますが、万が一のために日本円を現金で手元に持っておくと、必要な時に換金して使えるので便利でした。マカオにはダイソーがあり、日本食を作れるような材料や、コスメショップには日本のコスメやシャンプーも売っていて生活に必要なものはそろうので、渡航前に日本でシャンプー等を買って持っていく必要はあまりないと思いました。さらに、渡航前には健康診断の際に受けたX線の等身大フィルムの提出が必要だと聞いていたのですが、現地に行ってみると提出する必要はありませんでした。証明写真を持って行ったのですが、サイズが合わず、現地でする羽目になったので、サイズをよく確認した方がよいと思いました。

5. 留学にかかる必要経費について教えてください。(現地通貨＝MOP マカオパタカ)(例:USドル) 旧正月と夏休みに帰国した場合の一年間の費用(個人的な海外旅行費を除く)

内容	金額	内容	金額
渡航費(一時帰国込み)	13,000mop	食費	3,700
保険代	13,000	寮費;寮食込み	27,000
予防接種・ビザ代	370	教科書代	3,000
交際費(外食等)	15,000	その他	3,700

1MOP＝約 14 円

合計: 約 78,770mop

6. 文化・習慣の違いなどで気をつけていたことやアドバイス(服装・マナーなど)があれば教えてください。

レジで並んでいるときに距離が近かったり、バスを並んで待っているときに割込みされたりすることが多くありました。はじめは少し不快感があって嫌でしたが、時間がたつにつれて慣れました。他には、日本よりも歩きスマホが常習化されているのでキャンパス内を歩くと歩きスマホの人ばかりでぶつかってくる人と何度も会いました。それとって日本と全く違う文化はないのであまり特別気を遣うことはないと思います。

D. 健康管理

1. 周辺の病院や学内での医療サービスについて教えてください。

学内の体育館の隣にある医療従事センターに行くと診察がしてもらえやすく、私が日本で入っていた海外保険だと、診察料は無料だったはずですが。緊急搬送する病院は現地の入学登録時に、距離的には近くて英語が通じない可能性が高い public 病院と、距離的には遠いが英語は通じて手厚い手当てをしてくれる private 病院の 2 択を自分で選ぶことができました。

2. 留学中に通院や入院はしましたか。その際にかかった医療費はいくらでしたか。

幸いなことに病院にお世話になることはありませんでした。

3. 渡航前に必要だった健康診断や予防接種、日本から持参した薬などはありますか。

胸部のX線検査を含んだ一般的な健康診断と破傷風の予防接種がマストだったので受けました。風邪薬、鎮痛剤、ビタミン剤を持参しました。

【留学後：成果や今後の進路について】

1. 交換留学の成果について教えてください。

留学前に設定した目標が達成できたか/留学先での学業や生活を通して学んだこと/留学前に期待した以上に達成できたこととその理由/留学中、特に努力したことや心掛けたこと/留学を終えて変わったことなど

私が留学前に設定した目標は、マカオでビジネス、観光学を身につけるという勉強に重きを置いた目標でしたが、早々から観光学関連の授業がうまく取れず、確実に単位交換ができそうな授業ばかり取ってしまい、安定を取る形となってしまいました。課題やテスト、プレゼンに追われる日々の中であまり町に出歩くこともできない、少し不自由な生活でした。私は何を目標に頑張っているのかわからなくなってしまったので、テストが終わるとともに留学の目標の視点を改めてみよう、授業ですでに習っていたのですが、中国語(マンダリン)に力を入れて学び、マカオでの生活の中で日々英語ではなくマンダリンを極力使っていこうという目標を建てました。使っていくうちに通じないこともありましたが、通じることですごく新しい言語を話すことで喜びを覚え、自身につながっていきました。典型的な日本人顔である私は、見分けがつかず、頻繁にマカオ人・中国人に間違えられて中国語・広東語で話しかけられ、「自分は日本人なのに…」という葛藤があり、モヤモヤする時が多々ありました。しかし、英語だけでなく、わずかではありますが広東語、自学で身につけたマンダリンという引き出しを増やすことで自信が付き、中国人・マカオ人に間違えられてもモヤモヤすることがなくなりました。これは間違えられることに慣れたからというのがありますが、マンダリンを学ぶにつれて中国に対して以前まで持っていた固定観念が払しょくされ、中国に対して親しみやすく感じるようになり、今までとは逆により中国語に触れていたいと思うようになったからです。この、中国語学力の向上という新たな目標を掲げるにあたって、すべては独学(授業が取れなかったため)であったため、何か一つモチベーションとなるちょっとした目標・指標が必要だと思い、11月に上海で中国語検定を受けました。HSKではなく中国語検定を選んだ理由は特になく、しいて言えば将来日本で働きながら中国語を使いたいと思うので、中国で働く場合に有利なHSKよりも中国語検定を受験しました。それまで上海に旅行したことがなかったので、少し留学最後の旅行がてらに受けに行きました。行ってみると上海は想像以上に経済発展がすさまじく、都市部と伝統的要素が残っているその周辺があり、伝統的要素が集まる観光地には中国語の店名であふれており、目に入るたび読み方を知りたくなるような感じでものすごく感化されました。公共交通機関の発達も想像以上だったので、この受験に行くことでますます中国語を学ぶモチベーションにつながりました。日本に居て中国の情報を得るには、受け身ではニュースからの情報が多くい上に、あまり良い印象のものがないので、ネガティブなイメージ、抵抗が付きやすいのですが、こうして自分でマンダリンを学び、現地へ赴くことで印象ががらりと変わり、「まさに百聞は一見に如かず」とはこのことをいうのだと強く実感しました。中国語検定は3級を受け、無事合格に至ったので、さらなる高みを目指して、1年以内に2級を目指すという新たな目標も立てることができました。

マカオ大学に留学している日本人留学生は 15 人ほどで、何かと集まったり一緒に行動することが多く、誘われることも多かったのですが、私はあまり親しくない大人数と行動するのが苦手だったので、基本は一人行動で、たまにマカオ人・中国人の友達と行動するようにしていました。さらに、日本に居る友達とかなりの長期間距離を置くことで、一時帰国した際に連絡を取ってくれる人、会ってくれる人、喜んで応援してくれる人が目に見えて、いい意味で友達をふりにかけることができましたと思います。そして、連絡を常にとることも大事ですがきっぱり連絡を絶ってみるのもどれだけ支えになっているか、大事さが分かるので一定の距離間を保つのが重要だと思いました。留学の初番で悩んだ時には、日本に居る友達よりも留学経験のある先輩、もしくは留学中の友達に相談することで、たとえ仲の良い友達だとしてもわからないことがあるので、わかる人だけに分かってもらえればそれでいいという考え方に変わりました。ルームメイトとは前期も後期も合う方ではなかったのですが、これっきりの付き合いだと思い、気遣いにも限界があるので、自分の思うような暮らしを心掛けて精神を保っていました。そして私は実家暮らしで 20 年間家族と暮らしてきたので、初めの半年はホームシックが強かったのですが、半年で慣れて、電話の回数も減りました。自分の身の回りのことももちろん自分でできるようになり、精神的にも自立することができるようになってと思います。

留学を終えて帰国し、気づいたことは、自分の意見をはっきり言うようになったということです。今までは「自分なんて…」後ろに引いていたのですが、これは自分自身に自信を持てるようになったということで、留学を通して自分への変化が分かったからこそ、さらに 1 年間の留学を達成したからこそついた自信だったり、アイデンティティだと思うので、留学をしてよかったなとつくづく思います。

2. 留学中に達成が出来なかったことやその理由、反省点があれば教えてください。

私は一人行動が多かったので、あまり現地の友達ができませんでした。なので、所属していた部活動でもう少し積極的に話せればよかったと思います。

3. 今後の目標や挑戦したいこと、進路や就職活動について教えてください。

今後の目標は卒業までに中国語検定 2 級を取得することで、語学力を向上させてから上海やその他中国の都市に旅行に行つてまた更にモチベーションをアップさせていこうと思います。就職活動は間もなく始めるとは思いますが、未だ始めてはおらず、英語や中国語を使うようなサービス業の仕事に就きたいと考えています。

4. あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージをお願いします。

マカオは中国文化とポルトガル文化の融合が遺産として目に見える地であり、IR や街中の変化が日々さまざまいい地でもあるので、日本ではめったに体験できないイベントに参加したり、携わることもできます。マカオ自体も小さいので、数少ない大学のうちのマカオ大学生として、マカオならではの国際的イベント(F3 カーレース、フードフェスティバル、国際映画祭、IR でのフ

アクションショーなど)に優先的に参加できるチケットを得られたりなど恩恵を受けることができます。また、中国と陸繋がりであること、その他周辺アジア地域との距離が近く行きやすいことから、マカオからのアジア旅行も行きやすくなっています。言語面について、マカオ大学内では英語で暮らすことにさほど不便は感じませんが、街へ出ると英語が通じないこともあるので、友達などから現地語の広東語を教えてもらったり、自身で少し勉強したりして簡単な広東語を覚えたり、マンダリンも少しわかる・話せるようになると街中で買いものなどをするとスムーズになります。

このように自分のやる気次第では、街中での日常生活の中から中国語と広東語の両方を学ぶことができる珍しい地、マカオなので、言語だけでなくとも留学の可能性は多く秘めていると思います。留学先に着いてから生活をしていくうちに新たな目標も出てくることもあると思うので、ネットで情報を得たり、友達同士でやり取りするなどして常に変化に気を留めて生活すると中身の濃い留学になると思います。逆に言えば、中途半端な英語でも何とか生活できてしまうところもあるので、言語は広東語、マンダリン、英語何か一つの上達を目標に決めているといいと思います。マカオ大学に交換留学を決めたのでなくとも、この報告書を読んでもくださった方が実りある留學生活を送れますようお願いしています。